

平成二十八年年度 岡山大学 国語

問題一

問一	ア	分岐	イ	砂漠	ウ	著	エ	忌	オ	真剣
問二	<p>霊長類は昆虫を専食するという方法を選択しなかったということ。</p>									
問三	<p>重さあたりのエネルギー量の少ない葉を食べ物としても生きていけることと、大きな消化管で豊かな腸内細菌叢を養うことで、葉に含まれる難分解物質や毒物を微生物の酵素の働きで消化・無毒化することができること。</p>									
問四	<p>地域の生態系に根差したヒトの食べ物の違いは、生業の違いを体現し、自らの文化を他と区別してアイデンティティを高めると同時に、しばしば他文化を貶める働きをしてきたから。</p>									
問五	<p>筆者は、霊長類のほぼすべての栄養を満たす優良な食べ物である昆虫を新たなタンパク資源として活用することを考えており、そのためには昆虫食が野蛮で原始的であると嫌悪する価値観を見直すべきであるとしている。</p>									

問題二

問一	A	上げる	B	火が出る
問二	<p>自分の中で最年長の兄分である自分が入れ札に落ちて人望の無さが露呈するのは確実だと思われたから。</p>			
問三	<p>入れ札から洩れて面目を失うという屈辱を受けたくないという強い思いから、卑怯にも入れ札で自分の名を書いてしまった浅ましい行為への後悔。</p>			
問四	<p>自分が誰を信任し、選んでいるかを察し、子分たちが自分のためを考えてくれていたことを嬉しく思う気持ち。</p>			
問五	<p>入れ札で自分の名を書いた卑劣さに耐えられないだけでなく、弟分たちと比して、自分が本位で忠治のためを思えない態度をとったことを男らしくないと痛感し、自分の生き方そのものを否定するほど痛烈に自己嫌悪を感じている。</p>			

平成二十八年年度 岡山大学 国語

問題三

問一	ア	なんとかかして
	イ	立っていたので
ウ	エ	体裁悪がって
	オ	全くそんなことはありません
問二	<p>乗ってきた馬が走り去った事情を告げた男に、男の妻が仕組んだ計略であろうと邪推し、たわいもないことでさえ嫉妬する妻を持っているような人はどうしようもないと、女房たちが愛想を尽かしたから。</p>	
問三	<p>女への想いを告げようとして、夜中に女房たちから辛い評判を取ってしまい、泣き泣き帰る男の袖に、時雨までも降り添ってますます辛さが募る心情。</p>	
問四	<p>しきりに降る時雨と涙で袖が濡れたとおっしゃいますが、時雨が降ると漏るような古家だから、あなた様のお袖が濡れてしまったのでしょうか。</p>	

問題四

問一	よにつねにはあらず
問二	世の中ですぐれたものと思われたとしても、これもまた当然である。
問三	名画を描く者を得がたいことは、名馬を得がたいことよりも甚だしいものがある。
問四	<p>名馬の真価を理解できない人と同じくらい、名画の真価を理解できない人が多いので、千里の馬を描いた絵画の素晴らしさを世間の人に理解してもらうために、賛を作った。</p>